

「全鍍連」 2025年 2月号 巻頭言

全鍍連監事 大西 幸夫 (株)白浜工業所 取締役)

「兵庫県鍍金工業組合に入会して」



全国鍍金工業組合連合会監事そして兵庫県鍍金工業組合副理事長を仰せつかっております大西でございます。この度、全鍍連機関誌へ寄稿のお話をいただき、光栄に思いながらも、どんなお話をしようかなと悩みながら個人として会社として組合参入の経緯などを思い出しておりました。

全鍍連青年部が何年かの構想を経て発足したことをブロック会議で説明があり、ふと組合との関係が始まったのは青年部会からと回想いたしました。兵庫県の青年部会が発足したのは昭和 56 年 5 月でした。自身が入会したのは昭和 60 年、藤井顧問（当時青年部会員）からの一言で「幸ちゃん、青年部に入らないかい？若手で色々情報交換をしないか？」でした。組合の存在は知っていましたが、先代に任せておりました。実際、青年部会へ加入すると、姫路だけでなく、明石や神戸の会員とお話する機会が増え、会社経営や社員への思いなど、一人で悩むとことが多い問題や経営方針など思いを巡らせる機会となり、有意義な時間を過ごしておりました。季節がめぐり、全国の鍍金に関する情報収取や環境関係の法律の厳正など今後の会社経営にとって切っては切れない情報提供もあり、青年部会だけでなく、親会への参入を考え、昭和 63 年に入会いたしました。組合員 58 社と今に比べると 2 倍の企業が集まり、組合運営をし、全鍍連と組合員との懸け橋となっておりました。時は流れ、平成 7 年 1 月 17 日「阪神淡路大震災」が発生し、53 社中 29 社がめっき工程に必要な不可欠な機械器具に大小様々な被害が蒙っており、3 社ほど廃業という大災害でした。流出した廃液を基質とする環境汚染については、地下ピットを設置する等対策が取られていたことが功を奏して公害発生は食い止められました。姫路は被害が少なく、理事会では被災された会社、そして兵庫の復興をお手伝いできないかと声が上がり、青年部会代表で、山下さんが原付バイクにて神戸方面へ現状把握しに向かい、私どもは情報を元に、受注の請負など活動をいたしました。BCP の走りとなりますかね？先頭に立ち指揮した方々は、のちに叙勲を受章されております。当時義援金等いただきましたこと、少しでも恩返しがしたく東日本大震災時、義援金をさせていただきました。

今現在、兵庫組合は 29 社となり会員数が減少しております。後継者問題などが案件としてあり、めっき技術が必要な世の中ではありますが、技術の継承が今後の課題となっていると感じております。